

合同

No. 476

「その名は平和の君と唱えられる」

日本キリスト合同教会教師

工藤利雄



「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君』と唱えられる」（イザヤ書9章5節）。

人類の歴史を紐解くと戦争の歴史と言っても過言ではありません。この地上では、今もウクライナとロシアとの戦争、イスラエルとパレスチナ・ハマスの戦闘、シリアやミャンマーの内戦等で多くの国民が難民となり犠牲になっています。この絶え間ない戦いの中でも、今年もクリスマスがやってきます。戦闘状態にあるウクライナの首都キーウやイエスの生誕の地とされるパレスチナのベツレヘムでは、巨大なクリスマスツリーが飾られ、市民たちは平和な国になることを願ってイエス様の誕生をお祝いします。

クリスマスの季節は、多くの人が平和について思いめぐらすときとなります。争いや紛争が当たり前となってしまっているこの地上に生きるわたしたちも、これが本来のあるべき姿であるとは思っていないのです。だからこそ、クリスマスは、特別に、多くの人々が強い気持ちを持って平和を願うときとなるのです。

クリスマスは確かにイエス様の誕生をお祝いする日です。誕生日のお祝いと言うと、この一年の無事な成長への感謝と、これからも健やかに成長してほしいという願いを込めて、その人の誕生をお祝いすることです。ですが、この人間的な考え方からすれば、神様の誕生日をお祝いするということは、何だか奇異に感じます。では、どうして人々はクリスマスにイエス様の誕生を祝い喜ぶのでしょうか。イエス様の誕生日に隠されているクリスマスの本来の意味を考えます。

イエス・キリストの誕生をお祝いする日を、どうし

て「クリスマス」と言うのでしょうか。クリスマス（Christmas）の語源は、Christmas's Massです。キリストのミサ（聖餐式）という意味です。中世の時代から「クリスマス・イブ」にキリストの誕生をお祝いして教会でミサ、すなわち聖餐式を行うことから、「キリストのミサ」すなわち「クリスマス」と呼ばれています。クリスマスの起源は最後の晩餐にあるとも考えられます。食事を共にするという行為は、当時のユダヤ文化では、敵対関係にあった者同士が和解する、その関係が平和になるということです。

イエス様は、クリスマスに神との平和をわたしたちに与える「平和の君」として、人間の姿をとってこの地上に来られました。クリスマスは、わたしたちの心に、この平和の君をお迎えすることです。イエス様の誕生がもたらすクリスマスの平和とは、どのような平和なのでしょう。聖書の言う平和とは、戦争や争いのない状態を言うのではなく、神との正しい関係にある望ましい状態、すなわち神との平安の中にある平和です。この平和は、神との和解から生まれるのです。当然、人間は、神との和解がなければ、その間には平和を築けません。

聖書は、キリストがわたしたち人間を神と和解させてくださったと語っています（コリントの信徒への手紙二5章18節）。わたしたち人間に神との和解が必要であったという事実は、神と人間との間の平和な関係が壊れていたことを意味します。神と敵対する人間が再び神との平和を築けるようにするために、神は人間を神との正しい関係の中で生きられるようにしてくださいました。そのために、イエス様は人間の罪を背負い、罪人として十字架で死んでくださいました。ここに救いが与えられ、神との和解が与えられたのです。イエス様は、わたしたちの背きの罪を全て背負って十字架に掛かって死んでくださいました。そのことによって、わたしたちの罪は赦され、神との間に和解が成立し、神と人間との間に平和が建て上げられたのです。

わたしたちは、クリスマスに「平和の使者」であるイエス・キリストを心にお迎えします。それぞれの心に平和がまず訪れます。平和は、ただわたしたちの内に宿ればよいというものではありません。わたしたちが生きる紛争、争いが絶えないこの世界に、ベツレヘムから始まるクリスマスの平和を届けて行かなければなりません。